令和4～5年度 文化庁委託「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業【留学】

〈報告〉

別添

改訂版

「コースフレームワーク」と「モジュールボックス」を活用した

カリキュラムの作り方の例

令和６（2024）年３月29日
令和７（2025）年３月31日改訂

一般財団法人 日本語教育振興協会

文化庁

NISSHINKYO

目次

C

1．コースフレームワーク　とは？ …… 3

①原型モデル …… 4

②Aレベル中心モデル …… 5

③Bレベル中心モデル …… 6

参考：「コースフレームワーク」活用例 …… 7

M

2．モジュールボックス　とは？ …… 8

・留学類型の日本語教育における**基本10モジュール** …… 9

・モジュールボックスの構成（1～5） …10～14

C×M

3．２つのツールの組み合わせ方 …… 15

（ステップ1～ステップ6）

4．参考資料 …… 29

①「モジュールボックス」を活用したカリキュラムデザイン例… 29

②「基本10モジュール」の学習活動例・教材例 …… 45

C

Ⅰ．コースフレームワーク　とは？

「コースフレームワーク」とは、留学分野の日本語教育機関に設置される最長２年間の学習課程（コース）を横長の帯の形で示した枠（フレームワーク）のことです。教育機関ごとに、コースフレームワークに学習期間、学期、学習段階（レベル）を当てはめると、機関独自の学習課程の枠組みを示すことができます。

＊詳しい説明は、以下のpp. 8～12を参照。

令和４～５年度 文化庁委託 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業【留学】〈報告〉**改訂版（令和7年3月31日改訂）**

①原型モデル

②Aレベル中心モデル

③Bモデル中心モデル

C

①原型モデル

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

- ３か月を１学期とする10段階の設定。
- A1～C1までの段階を３か月ごとに、ほぼ一定の学習時間で進めるモデル。
- カリキュラム作成の際に、どの段階から始めてどの段階で終わるか検討する。

C

②Aレベル中心モデル

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽
「参照枠」レベル	～A1	A1	A2	A2	A2	A2～B1	B1	B1

- ３か月を１学期とする８段階の設定。
- Aレベルに十分な時間をかけ、B1到達を目標とするモデル。
- 想定される対象は、非漢字圏の学習者や学習に時間のかかるタイプの学習者。
  生活者、就労者、学び直しの学習者、趣味や関心から学ぶ学習者　等

C

③Bレベル中心モデル

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽
「参照枠」レベル	B1	B1	B1～B2	B2	B2	B2	B2～C1	C1～

- ３か月を１学期とする８段階の設定。
- Bレベルに十分な時間をかけ、C1到達も目標とし得るモデル。
- 想定される対象は、母国で学習歴がある学習者、学習レディネスが身についた学習者、進学や就職などを目的とした学習スピードの速い学習者　等。

C

参考：「コースフレームワーク」活用例（「①原型モデル」より）

※赤枠の箇所をコースとして設定

例１：高度人材就職２年コース、　大学院・大学・専門学校進学２年コース　など

時間		6か月		6か月		6か月		6か月		
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

例２：高度人材就職1.5年コース、　大学院・大学・専門学校進学1.5年コース　など

時間		3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月		
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

例３：教養日本語２年コース、　文化体験２年コース 、　大学院・大学・専門学校進学２年コース　など

時間	3か月	3か月	6か月	3か月	6か月	3か月	3か月			
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

＊詳しい説明は、以下のpp. 8～12を参照。

M

２．モジュールボックス　とは？

「モジュールボックス」とは、「日本語教育の参照枠」に示されている各種Can doを、留学分野の日本語教育機関に在籍する学習者が行うであろう言語活動イメージから大きなモジュール（大項目）ごとに整理したものです。

具体的なツールは以下の〈モジュールボックス〉をクリックしてご覧ください。

＊詳しい説明は、以下のpp. 13～16を参照。

令和４～５年度 文化庁委託 「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業【留学】〈報告〉**改訂版（令和7年3月31日改訂）**

〈モジュールボックス（Version 1.1）2025.03.31〉

M

留学類型の日本語教育における基本10モジュール

INDEX
ページ

【留学類型：基本10モジュール】			＊青字部分をクリックすると詳細説明	
1	授業／講義に参加できる		6	情報発信ができる
2	グループでの活動に参加できる		7	問い合わせができる
3	試験の準備・対策ができる		8	社交ができる
4	面接・面談が受けられる		9	手続きができる
5	情報収集ができる		10	楽しむことができる

※進学を目指す学習者を意識しつつも、就職や生活等を目的とする学習者が求める言語活動にも対応できるよう抽出・選定。

（例．「３ 試験の準備・対策ができる」は日本語試験や大学入試以外にも多様な試験をイメージ。）

M

〈モジュールボックス〉の構成（1/5）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例

① **1 授業／講義に参加できる**

【このモジュールで行う活動】
主に授業／講義などで受けた話の内容や指示、キーワードを理解し、指示に沿って活動したり、まとめて記録に残す活動。
・他にも会社で議事録を取ったり、窓口で手順を聞いてメモするなども含まれる。
・授業／講義の中で配布資料を見ながら話を聞いたり、質疑応答をしたりする活動もあるが、ここでは「聞く」と「テクスト」の活動例を示す。
・A1レベルの単語を聞き取りメモすることから始まり、B2レベルでは長い話（講義や発表など）の要点をメモから再構成するような能力が加わる。

④

⑤

② **領域**

私的	公的	職業	教育
			○

③ **コミュニケーション言語活動**

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
◎	○	○	○	○	◎

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

レベル	このモジュールの活動Can doの例	具体的な行動例	学習活動例
B2	自分の専門のかなり複雑な講義の要点が理解でき、まとめて人に見せられるような内容をノートに取ることができる。	・講義／講演やスピーチ、クラスメートの発表のような長い話を聞いて内容や指示を理解する ・理解した内容や指示について、後から見返したり人に説明できるような文章にする ・聞いた音を文字（母語・ひらがな・カタカナ・漢字）で書き取る	・講義動画／音声を視聴し、講義ノートの空欄を埋めたり、キーワード／要点のメモを取った後、講義ノートを作成する。（欠席した友達に見せてあげられるようなノート作り） ・博物館や美術館の学芸員や案内員の説明を聞いて、レポートや発表課題のためにメモを取る。質問する。 ・オンラインオープンキャンパスを視聴しながらメモを取り、質問したいことを考える。
B1	自分の専門で、内容が簡単であれば講義の要点が理解でき、出てきた重要な内容についてリストのような複数の文章にできる。		・クラスメートのあるテーマのプレゼンテーションを聞いてメモを取る。（文レベル） ・中級の教材、やさしい日本語のニュースや教員のわかりやすい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・日本語での生活オリエンテーションで必要事項のメモを取る。（ビザ更新や休暇前オリエンテーションなど）
A2	発話がはっきり・ゆっくりしていて内容が簡単であれば、出てきた重要な内容を短い文でメモできる。		・クラスメートの身近な話題についての発表を聞いて、メモを取る。（単語レベルの）わからない言葉を質問する。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・やさしい日本語で行われた生活オリエンテーションで必要事項のメモを取る。 ・文単位のディクテーションをする。
A1	発話がはっきり・ゆっくりしていてさまざまな配慮があれば、聞いた言葉の一部をメモできる。		・新入生向けのやさしい日本語のオリエンテーションを聞いて重要事項を母語でメモする。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・単語や短文のディクテーションをする。

右スクロール

①【基本10モジュール】の項目（INDEX 1 ～10と一致）
②このモジュールの活動が行われると想定される主な「領域」
③このモジュールの活動の遂行に大きく関わると考えられる「日本語教育の参照枠」の「コミュニケーション言語活動（活動Can do）」の種類
④このモジュールが主にどのような活動であるか、特徴の説明
⑤このモジュールの「活動Can doの例」（A1～B2）、「具体的な行動の例」、その行動の遂行に向けた「学習活動例」（レベル別）

M

〈モジュールボックス〉の構成（2/5）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例

1 授業／講義に参加できる

領域			
私的	公的	職業	教育
			○

コミュニケーション言語活動					
理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
◎	○	○	○	○	◎

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

モジュール1に強く関連する「日本語教育の参照枠」の枠組み（黄色の部分）　＊青字はすべてレベルごとの能力記述文にリンクしています。

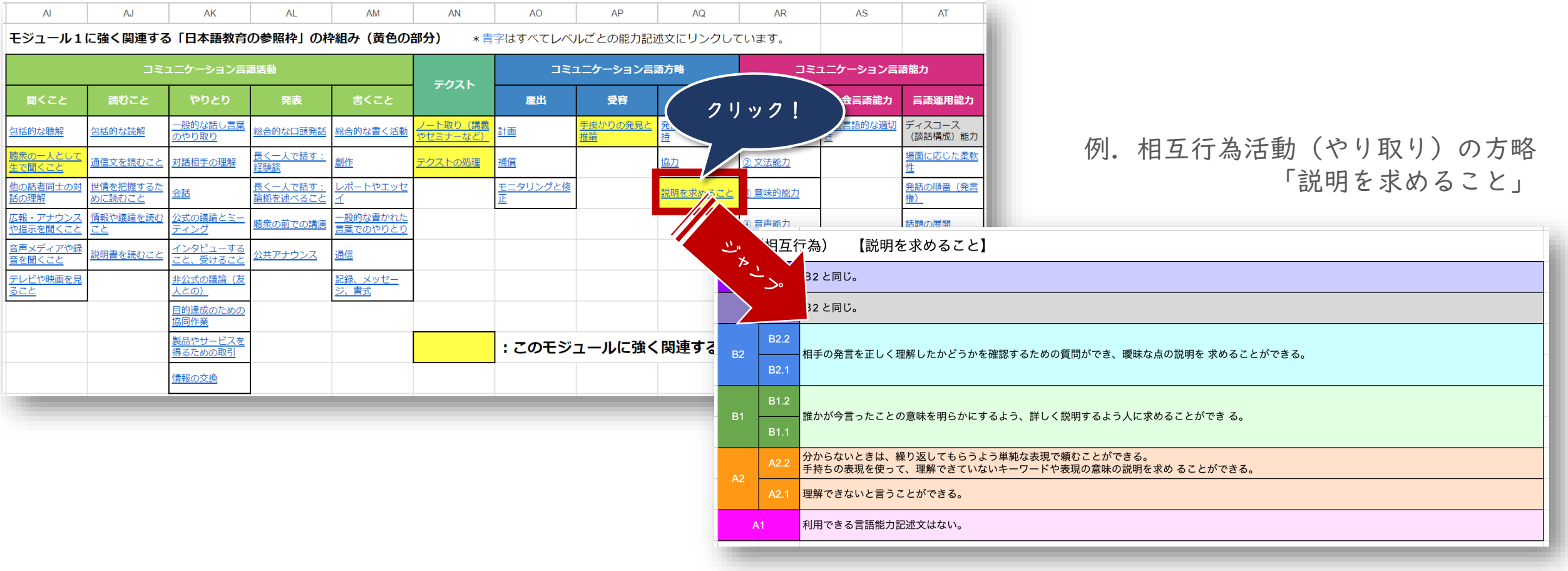
コミュニケーション言語活動					テクスト	コミュニケーション言語方略			コミュニケーション言語能力		
聞くこと	読むこと	やりとり	発表	書くこと		産出	受容	相互行為	言語構造的能力	社会言語能力	言語運用能力
包括的な聴解	包括的な読解	一般的な話し言葉のやり取り	総合的な口頭発話	総合的な書く活動	ノート取り（講義やセミナーなど）	計画	手掛かりの発見と推論	発言権の取得／保持	① 語彙能力	社会言語的な適切さ	ディスコース（談話構成）能力
聴衆の一人として生で聞くこと	通信文を読むこと	対話相手の理解	長く一人で話す：経験談	創作	テクストの処理	補償		協力	② 文法能力		場面に応じた柔軟性
他の話者同士の対話の理解	世情を把握するために読むこと	会話	長く一人で話す：論拠を述べること	レポートやエッセイ		モニタリングと修正		説明を求めること	③ 意味的能力		発話の順番（発言権）
広報・アナウンスや指示を聞くこと	情報や議論を読むこと	公式の議論とミーティング	聴衆の前での講演	一般的な書かれた言葉でのやりとり					④ 音声能力		話題の展開
音声メディアや録音を聞くこと	説明書を読むこと	インタビューすること、受けること	公共アナウンス	通信					⑤ 正書法の能力		一貫性と結束性
テレビや映画を見ること		非公式の議論（友人との）		記録、メッセージ、書式					⑥ 読字能力		機能的能力
		目的達成のための協同作業									話し言葉の流ちょうさ
		製品やサービスを得るための取引				：このモジュールに強く関連する枠組み					叙述の正確さ
		情報の交換									

赤枠＝そのモジュールに強く関連する「日本語教育の参照枠」の枠組み：

このモジュールの活動の遂行に大きく関わると考えられる「日本語教育の参照枠」の項目を黄色で例示。

〈モジュールボックス〉の構成（3/5）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例：



例．相互行為活動（やり取り）の方略
「説明を求めること」

各項目をクリックすると、「日本語教育の参照枠」のA1～C2の言語能力記述文にジャンプする。
（元に戻ることもできる）

〈モジュールボックス〉の構成（4/5）

基本10モジュール【1 授業／講義に参加できる】の例：

1 授業／講義に参加できる

【このモジュールで行う活動】
主に授業／講義などで受けた話の内容や指示、キーワードを理解し、指示に沿って活動したり、まとめて記録に残す活動。
・他にも会社で議事録を取ったり、窓口で手順を聞いてメモするなども含まれる。
・授業／講義の中で配布資料を見ながら話を聞いたり、質疑応答をしたりする活動もあるが、ここでは「聞く」と「テクスト」の活動例を示す。
・A1レベルの単語を聞き取りメモすることから始まり、B2レベルでは長い話（講義や発表など）の要点をメモから再構成するような能力が加わる。

領域				コミュニケーション言語活動					
私的	公的	職業	教育	理解する		話す		書く	テクスト *4
				聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
			○	◎	○	○	○	○	◎

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

レベル	このモジュールの活動Can doの例	具体的な行動例	学習活動例
B2	自分の専門のかなり複雑な講義の要点が理解でき、まとめて人に見せられるような内容をノートに取ることができる。	・講義／講演やスピーチ、クラスメートの発表のような長い話を聞いて内容や指示を理解する ・理解した内容や指示について、後から見返したり人に説明できるような文章にする ・聞いた音を文字（母語・ひらがな・カタカナ・漢字）で書き取る	・講義動画／音声を視聴し、講義ノートの空欄を埋めたり、キーワード／要点のメモを取った後、講義ノートを作成する。（欠席した友達に見せてあげられるようなノート作り） ・博物館や美術館の学芸員や案内員の説明を聞いて、レポートや発表課題のためにメモを取る。質問する。 ・オンラインオープンキャンパスを視聴しながらメモを取り、質問したいことを考える。
B1	自分の専門で、内容が簡単であれば講義の要点が理解でき、出てきた重要な内容についてリストのような複数の文章にできる。		・クラスメートのあるテーマのプレゼンテーションを聞いてメモを取る。（文レベル） ・中級の教材、やさしい日本語のニュースや教員のわかりやすい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・日本語での生活オリエンテーションで必要事項のメモを取る。（ピザ更新や休暇前オリエンテーションなど）
A2	発話がはっきり・ゆっくりしていて内容が簡単であれば、出てきた重要な内容を短い文でメモできる。		・クラスメートの身近な話題についての発表を聞いて、メモを取る。（単語レベルの）わからない言葉を質問する。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・やさしい日本語で行われた生活オリエンテーションで必要事項のメモを取る。 ・文単位のディクテーションをする。
A1	発話がはっきり・ゆっくりしていてさまざまな配慮があれば、聞いた言葉の一部をメモできる。		・新入生向けのやさしい日本語のオリエンテーションを聞いて重要事項を母語でメモする。 ・初級の教材、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。 ・単語や短文のディクテーションをする。

その他のモジュールを見るには、下へスクロール。

下へスクロール

M

〈モジュールボックス〉の構成（5/5）

下へスクロール

2 グループでの活動に参加できる

【このモジュールで行う活動】
グループでの活動について「協働学習」という観点から、「課題達成」と「集団の形成・維持」に必要な能力を育成する活動。
・グループでの活動については、レベルが上がるにつれて、問題の答えをお互いに相談するといった簡単なものから、そもそも協働的な作業でないと行えない活動へと変化することを想定した。
・教師には「日本語教育」の知識だけでなく、「協働学習」の知識が必要となる。CEFR-CVにおける「概念の仲介（Mediating concepts）」のCan doが参考になる。

レベル	このモジュールの活動Can doの例	具体的な行動例	学習活動例

3 試験の準備・対策ができる

【このモジュールで行う活動】
主に学習者がそれぞれの目標・自身の能力を測定するためにさまざまな形式の試験を受けることを想定し、授業中その対策本を解くというよりは教師の解説を聞いて理解したり助けてもらったりという過程を経ながら最終的には自身の現在の能力について客観的に認識し自律的に授業外でも必要な学習を検討していくための活動。試験については選択式から記述式、面接や小論文、研究計画のプレゼンテーションなども想定した。また、日本語の試験以外の各種試験（例：資格試験や運転免許試験など）も想定している。
・コミュニケーション言語活動だけではなく、言語方略・言語能力の育成も重視している。
・A1・A2では母語での説明や教員の助けなどを得ながら、B1・B2では客観的に自分自身を分析し、自律的に学習を自らデザインしていける段階へと進む。

領域

私的	公的	職業	教育
		○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
○	○	○	○	○	○

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

4 面接・面談が受けられる

領域

私的	公的	職業	教育
	○	○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
	△	◎	◎	○	△

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

5 情報収集ができる

【このモジュールで行う活動】
主に、学校、生活に関する情報など自分の知りたい情報を得ることを目的とした活動。
・例えば興味関心のある情報を収集する活動が含まれる。
・「聞く・読む」以外にも、必要に応じて「やりとり」の活動も行われる。
・Aレベルでは日本での留学生活をスタートするにあたり必要とされる学校・生活情報を得ることから始まり、Bレベルでは長い会話ややりとりを通して、また、複雑な内容が書かれた情報から取捨選択しながら自分に必要な情報を得るこ

領域

私的	公的	職業	教育
○	○	○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
◎	◎	○		○	△

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

6 情報発信ができる

領域

私的	公的	職業	教育
○		○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
			○	○	○

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

7 問い合わせができる

【このモジュールで行う活動】
対面、電話、メールで、自分にとって必要な情報を問い合わせる活動。
・他にも役所や銀行など日常的な問い合わせから、クレーム・交渉など非日常的な問い合わせなども含まれる。
・「話す・やり取り」の「製品やサービスを得るための取引」に紐づいた項目であるが、メールやネットフォームなどを通して書いてやりとりする活動もある。
・Aレベルでは日常生活の簡単な質問をするところから始まり、B1レベルではさらに詳しい説明を求めたり、B2レベルでは相談や交渉も行う。

領域

私的	公的	職業	教育
○	○	○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
○	◎	◎		◎	○

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

8 社交ができる

領域

私的	公的	職業	教育
○		○	

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト

9 手続きができる

【このモジュールで行う活動】
主に、進学の際の出願、入学の手続きなどの活動。
・他に、役所や医療機関、図書館などの公共施設のサービスや、生活場面で必要となるサービスを利用する場面が含まれる。
・Aレベルでは、駅や病院の窓口といった生活場面を中心に自分の目的に合った活動を他人の直接的な口頭による指示を受け、補助を借りながら行う。
・次第に手続きのための漢字や カタカナなどが混在する表記の文書を理解し、自分が正しく理解できているか確認をするなど方略を用いながら目的を果たす。

領域

私的	公的	職業	教育
	○	○	○

コミュニケーション言語活動

理解する		話す		書く	テクスト*4
聞く	読む	やり取り*1	発表*2	書く*3	
○	○	◎		◎	△

*1…口頭でのやり取り
*2…ターンの長い発話を含む
*3…書くやり取りを含む
*4…ノート・メモ・要約

INDEX

レベル	このモジュールの活動Can doの例	具体的な行動例	学習活動例
B2	適宜、自分が正しく理解できているかといった社会的な方略を用いながら、公共サービスを利用する上での手続きなどが示された文書の内容の中から必要な情報を正しく理解し、行動ができる。また、利用するための手続きの手順について担当者や窓口の人に尋ね、他者の補助を受けながら目的が果たせる。	・病院や薬局の窓口での手続き ・役所や駅などでの手続き ・進学の際の出願、入学手続き ・自習室や会議室の予約 ・入居や、電気、水道、ガス、通信の契約手続き	・フィールドトリップ活動：クラス、グループ単 ・学習成果発表会場の予約、会場利用の申請を行 ・調査旅行企画コンテスト：限られた予算内で、案してもらう。訪問先の施設概要、申し込み方法画する。
B1	ふだん日常的に行っているような状況においては、自分の目的に合った手続きなどにほとんど対応できる。必要に応じ、場面にふさわしい待遇表現を用いて、依頼、相談、許可を求めることができる。また、口頭でのやり取りを通じ、他者の補助を受けながらほとんどの手続きに対応できる。		・進学や就職を想定した必要な各種手続きの練習習、E-mailの送付等。 ・学校の事務室を訪問し手続きを行う練習；学習一人がビデオ撮影するなどしてピアチェックを行 ・学習者が利用しそうな近隣の公共施設、トレー
A2	予測可能な日常の状況ならば、身近な話題についての考えや情報を交換し、質問に答えることができる。 身近な生活や仕事における日々の事柄について、直接的で簡単な情報交換をしながら通常のタスクを達成できる。 非常に短い社交的なやり取りに対応できる。		・問診票、予診票の記入：病院で診察を受 く見かける語彙や表現について調べ、確認
A1	非常に基本的で自分に関する内容なら、公共のアナウンスを聞き取ったり、名前や住所を書くなどの簡単な手続きが行える。		・引っ越しの際の市役所の転出・転入の手 的に自分の氏名や住所などを記述する場面 務は、数か月に一度定期的に住所の確認をし ける。

10 楽しむことができる

【このモジュールで行う活動】
主に個々に興味のあることを楽しみ、人生をより豊かにするための活動。
・他にも、自分の興味のあることとつながる新しい分野の楽しみを見つけ、それらを楽しみながら自らの世界を広げることをイメージしている。
・Aレベルでは個人的に楽しむことを想定。Bレベルでは、自分の専門や興味があることからつながりのある新しい分野へ足を踏み入れることで楽しむ範囲を広に

領域

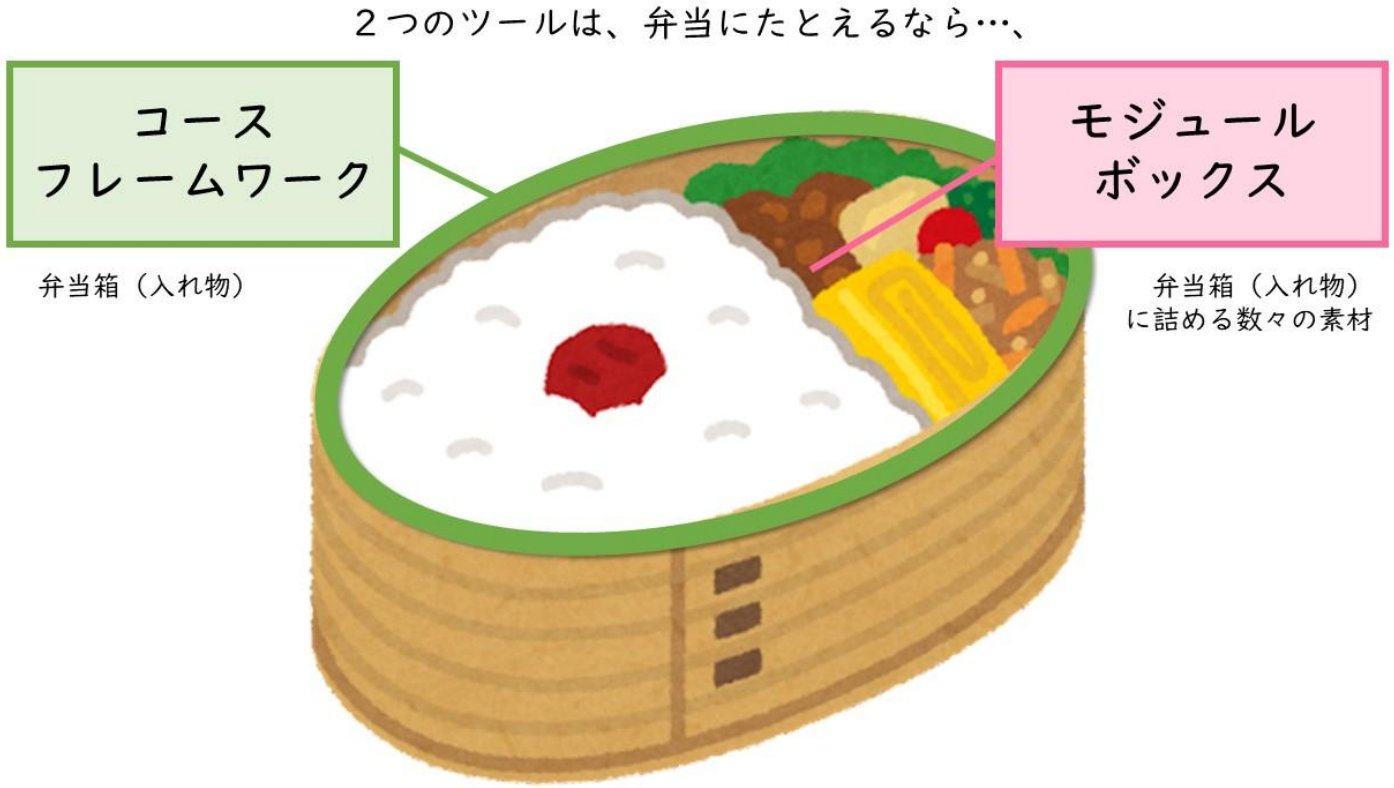
私的	公的	職業	教育

レベル	このモジュールの活動Can doの例	具体的な行動例	学習活動例

C×M

３．２つのツールの組み合わせ方

〈コースフレームワーク〉×〈モジュールボックス〉



C×M

カリキュラム作成の手順の【例】

★ここで示すステップや手法は、**あくまでも【例】**で、他にもいろいろな手順や手法があります。

ステップ１：教育理念の確認と明文化

ステップ２：コースフレームワークを参考にコースの枠組みを決定

ステップ３：モジュールボックス「基本10モジュール」から重点項目を選定

ステップ４：学習段階ごとに具体的な活動を検討

ステップ５：モジュールボックスを活用して「日本語教育の参照枠」と照合

ステップ６：**「日本語教育の参照枠」Can doを活用しながら評価表を作成**

※ステップ５・６は、 ①活動Can do ②方略Can do の２種についてそれぞれ例示しています。

＊カリキュラム作成については、以下のpp. 17～21もご参照ください。

ステップⅠ：教育理念の確認と明文化

例：Y校の「教育理念」「卒業時の学習者のイメージ」

言語やそれ以外による自己表現と他者理解を通じ、他人や社会、地域とつながる人材を育成する。

C×M

ステップ２：コースフレームワークを参考にコースの枠組みを決定

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

〈コースフレームワーク〉 **「①原型モデル」**から赤枠を選択

※Y校では入学時の学習者レベルがA2であるため、赤枠を選択。

C×M

ステップ3：モジュールボックス「基本10モジュール」から重点項目を選定

時間	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階	①	②	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル	~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~

〈モジュールボックス：基本10モジュール〉

1	授業／講義に参加できる								
2	グループでの活動に参加できる								
3	試験の準備・対策ができる								
4	面接・面談が受けられる								
5	情報収集ができる								
6	情報発信ができる								
7	問い合わせができる								
8	社交ができる								
9	手続きができる								
10	楽しむことができる								

＊色の意味：重視して行う　行う活動　ほぼ行わない

C×M

ステップ4：学習段階ごとに具体的な活動を検討

※以下、2年目の活動の一部を例示する

時間		3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月	3か月
学習段階		①	②	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	❿
「参照枠」レベル		~A1	A1~A2	A2	A2~B1	B1	B1	B1~B2	B2	B2	C1~
〈モジュールボックス：基本10モジュール〉											
1	授業／講義に参加できる										
2	グループでの活動に参加できる										
3	試験の準備・対策ができる										
4	面接・面談が受けられる										
5	情報収集ができる										
6	情報発信ができる										
7	問い合わせができる										
8	社交ができる										
9	手続きができる										
10	楽しむことができる										

＊色の意味：

重視して行う	行う活動	ほぼ行わない

C×M

例：Y校の２年目の〈学習目標〉

・上級レベルの文法や語彙を理解し、使えるようになる。
（→それぞれの進路に必要な試験合格を目指す。）

・抽象的な語彙や表現を「読む」「聞く」こと、それらを使って自分の考えを「話す」「書く」活動ができるようになる。

・日本人や色々な国の人と深く複雑な話ができるようになる。

・日本社会の色々な側面を知り、実際に社会とつながることができるようになる。

3か月			3か月
❼	❽	❾	❿
B1～B2	B2	B2	C1～

1　授業／講義に参加できる			
2　グループでの活動に参加できる			
3　試験の準備・対策ができる			
4　面接・面談が受けられる			
8　社交ができる			
10　楽しむことができる			

例：Y校の２年目の〈学習目標〉に基づく〈学習活動〉の一例

「インタビュー活動」の目標（Can do）

・対話を通して互いの様々な立場を理解することができる

・他者への興味・関心を持ち、自分と異なる存在を知ることができる

・配慮をしながら本当に聞きたいことを聞き、意義のある対話の場を作ることができる

※補足：多様な進路選択をする学習者のために、各自に以下を意識するよう促す。

・抽象的な語彙や表現、専門外の語彙を聞けるようになる

・他者の考えを日本語で理解することができるようになる

・インタビューの手法を学び大学院での研究の練習とする

・大学受験や就職活動の際の面接において、質問する側の立場を認識する　　等

C×M

ステップ５：モジュールボックスを活用して「日本語教育の参照枠」と照合

① 活動Can do の例

例：「インタビュー活動」の中核となる「面接・面談が受けられる」（モジュール4）は、どんな〈活動Can do〉と関連するか？

【留学類型：基本10モジュール】	＊青字部分をクリックすると詳細説明に移動します。
1	授業／講義に参加できる
2	グループでの活動に参加できる
3	試験の準備・対策ができる
4	面接・面談が受けられる
5	情報収集ができる

モジュール４に強く関連する「日本語教育の参照枠」の枠組み（黄色の部分）　＊青字はすべてレベルごとの能力記述文にリンクしています。

コミュニケーション言語活動					テクスト	コミュニケーション言語方略			コミュニケーション言語能力		
聞くこと	読むこと	やりとり	発表	書くこと		産出	受容	相互行為	言語構造的能力	社会言語能力	言語運用能力
包括的な聴解	包括的な読解	一般的な話し言葉のやり取り	総合的な口頭発話	総合的な書く活動	ノート取り（講義やセミナーなど）	計画	手掛かりの発見と推論	発言権の取得／保持	① 語彙能力	社会言語的な適切さ	ディスコース（談話構成）能力
聴衆の一人として生で聞くこと	通信文を読むこと	対話相手の理解	長く一人で話す：経験談	創作	テクストの処理	補償		協力	② 文法能力		場面に応じた柔軟性
他の話者同士の対話の理解	世情を把握するために読むこと	会話	長く一人で話す：論拠を述べること	レポートやエッセイ		モニタリングと修正		説明を求めること	③ 意味的能力		発話の順番（発言権）
広報・アナウンスや指示を聞くこと	情報や議論を読むこと	公式の議論とミーティング	聴衆の前での講演								
音声メディアや録音を聞くこと	説明書を読むこと	インタビューすること、受けること	公共アナウンス								
テレビや映画を見ること		非公式の議論（友人との									
		目的達成のための協同作									
		製品やサービスを得るた取引									

話すこと／やり取り　【インタビューすること、インタビューを受けること】

C2		極めて上手に対話の一方を務めることができる。他の話者と比べても引けを取らず、インタビューする人かインタビューを受ける人として、堂々と、努力することなく流ちょうに話や対話を組み立てることができる。
C1		インタビューする人としてもインタビューを受ける側としても、インタビューに完全に参加することができる。助け船を出さなくとも、なめらかに議論点を発展させることができ、間投詞やあいづちもうまく使える。
B2	B2.2	インタビューを滑らかに効果的に行うことができる。相手の興味深い返答を取り上げ、用意した質問を自発的に変えるなどして、更に興味深い答えを引き出すことができる。
	B2.1	インタビューを受けるとき、相手に助けてもらったり、水を向けてもらわなくても、イニシアティブを取ってアイデアを伸長、伸展させることができる。
B1	B1.2	・インタビューや診察（例：医者に症状を説明する）で正確さは限られるものの、必要とされる具体的な情報を提供することはできる。 ・もし相手が答えを早口で言ったり、長かったりすると、時には繰り返しを求めることもあるが、情報をチェックし、確認しながら用意されたインタビューをやり遂げることはできる。
	B1.1	・インタビューや協議（例：新しい話題を始める）で、対話の相手に頼るところが大きいものの、幾らかイニシアティブを取ることができる。 ・組み立てられたインタビューをやり遂げるために、あらかじめ用意した質問用紙を使うことができ、相手の答えを受けてそれに続くような質問を幾つかは出すことができる。
A2	A2.2	もし時々説明を求めたり、自分が言いたいことを表現する手助けが得られれば、インタビューで自分の言いたいことを相手に理解させられるし、身近な話題についての考えや情報を伝えることができる。
	A2.1	インタビューで簡単な質問に答えたり、簡単な意見表明をしたりすることができる。
A1		個人的なことについて、慣用句的な言葉遣いもなく、ごくゆっくりとはっきりと話してもらえるなら、簡単かつ直接的な質問に答えることができる。

「日本語教育の参照枠」Can doを確認

C×M

ステップ６：「日本語教育の参照枠」Can doを活用しながら評価表を作成

① 活動Can do の例

話すこと／やり取り　【インタビューすること、インタビューを受けること】

C2		極めて上手に対話の一方を務めることができる。他の話者と比べても引けを取らず、インタビューする人かインタビューを受ける人として、堂々と、努力することなく流ちょうに話や対話を組み立てることができる。
C1		インタビューする人としてもインタビューを受ける側としても、インタビューに完全に参加することができる。助け船を出さなくとも、なめらかに議論点を発展させることができ、間投詞やあいづちもうまく使える。
B2	B2.2	インタビューを滑らかに効果的に行うことができる。相手の興味深い返答を取り上げ、用意した質問を自発的に変えるなどして、更に興味深い答えを引き出すことができる。
	B2.1	インタビューを受けるとき、相手に助けてもらったり、水を向けてもらわなくても、イニシアティブを取ってアイデアを伸長、伸展させることができる。
B1	B1.2	・インタビューや診察（例：医者に症状を説明する）で正確さは限られるものの、必要とされる具体的な情報を提供することはできる。 ・もし相手が答えを早口で言ったり、長かったりすると、時には繰り返しを求めることもあるが、情報をチェックし、確認しながら用意されたインタビューをやり遂げることはできる。
	B1.1	・インタビューや協議（例：新しい話題を始める）で、対話の相手に頼るところが大きいものの、幾らかイニシアティブを取…きる。 ・組み立てられたインタビューをやり遂げるために、あらかじめ用意した質問用紙を使うことができ、相手の答えを受けてそ…な質問を幾つかは出すことができる。
A2	A2.2	もし時々説明を求めたり、自分が言いたいことを表現する手助けが得られれば、インタビューで自分の言いたいことを相手に…れるし、身近な話題についての考えや情報を伝えることができる。
	A2.1	インタビューで簡単な質問に答えたり、簡単な意見表明をしたりすることができる。
A1		個人的なことについて、慣用句的な言葉遣いもなく、ごくゆっくりとはっきりと話してもらえるなら、簡単かつ直接的な…できる。

C×M

活動Can do を参考に作成したルーブリックの例

例：Y校の「インタビュー活動」の自己評価表（活動Can do）

	B1	B1＋	B2	B2＋
インタビューをする	あらかじめ用意したインタビューをすることができる。 相手に助けてもらうことが多いが、自分から質問を続けることができる。	相手の返答内容を確認しながら、あらかじめ用意したインタビューができる。 相手が早口で言ったり、返答が長かったりすると、時々繰り返しを求めるが、自分から質問を続けることができる。	相手に助けてもらわなくても、自分から質問しながら、相手の返答をさらに広げることができる。	相手の興味深い返答を取り上げ、用意した質問を自発的に変えるなどして、さらに興味深い答えを引き出すことができる。 インタビューを滑らかに効果的に行うことができる。
＊チェックしましょう				

※「日本語教育の参照枠」のCan doに基づき、文言を調整して、独自のルーブリックを作成することができる。

C×M

ステップ５：モジュールボックスを活用して「日本語教育の参照枠」と照合
② 方略Can do の例

例：「インタビュー活動」の際に求められる「社交ができる」（モジュール8）は、どんな〈方略Can do〉と関連するか？

【留学類型：基本10モジュール】		＊青字部分をクリックすると詳細説明に移動します。	
1	授業／講義に参加できる	6	情報発信ができる
2	グループでの活動に参加できる	7	問い合わせができる
3	試験の準備・対策ができる	8	社交ができる
4	面接・面談が受けられる	9	手続きができる
5			

モジュール８に強く関連する「日本語教育の参照枠」の枠組み（黄色の部分）　＊青字はすべてレベルごとの能力記述文にリンクしています。

コミュニケーション言語活動					テクスト	コミュニケーション言語方略			コミュニケーション言語能力		
聞くこと	読むこと	やりとり	発表	書くこと		産出	受容	相互行為	言語構造的能力	社会言語能力	言語運用能力
包括的な聴解	包括的な読解	一般的な話し言葉のやり取り	総合的な口頭発話	総合的な書く活動	ノート取り（講義やセミナーなど）	計画	手掛かりの発見と推論	発言権の取得／保持	① 語彙能力	社会言語的な適切さ	ディスコース（談話構成）能力
聴衆の一人として生で聞くこと	通信文を読むこと	対話相手の理解	長く一人で話す：経験談	創作	テクストの処理	補償		協力	② 文法能力		場面に応じた柔軟性
他の話者同士の対話の理解	世情を把握するために読むこと	会話	長く一人で話す：論拠を述べること	レポートやエッセイ		モニタリングと修正		説明を求めること	③ 意味的能力		発話の順番（発言権）
				般的な書かれた葉でのやりとり					④ 音声能力		話題の展開
				信					⑤ 正書法の能力		一貫性と結束性
									⑥ 読字能力		機能的能力
											話し言葉の流ちょうさ
											叙述の正確さ

：このモジュールに強く関連する枠組み

方略（相互行為）　【協力】

C2		C1 と同じ。
C1		巧みに
B2	B2.2	相手の
	B2.1	発言を
B1	B1.2	会話や
	B1.1	誰かが
A2	A2.2	理解し
	A2.1	
A1		利用で

方略（相互行為）　【説明を求めること】

C2		B2 と同じ。
C1		B2 と同じ。
B2	B2.2	相手の発言を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、曖昧な点の説明を 求めることができる。
	B2.1	
B1	B1.2	誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、詳しく説明するよう人に求めることができ る。
	B1.1	
A2	A2.2	分からないときは、繰り返してもらうよう単純な表現で頼むことができる。 手持ちの表現を使って、理解できていないキーワードや表現の意味の説明を求め ることができる。
	A2.1	理解できないと言うことができる。
A1		利用できる言語能力記述文はない。

「日本語教育の参照枠」Can doを確認

C×M

ステップ６：「日本語教育の参照枠」Can doを活用しながら評価表を作成

② 方略Can do の例

方略（相互行為）　【協力】

C2		C1 と同じ。
C1		巧みに自分の話を他の話し手の話に関連付けることができる。
B2	B2.2	相手の反応や意見、推論に対応して、フィードバックを与え、議論の進展に寄与できる。 身近な範囲の議論なら、自分の理解したことを確認したり、他の人の発言を誘ったりし て、議論の進展に寄与できる。
	B2.1	
B1	B1.2	会話や議論を進めるために、基本的な言葉や方略の中から持っているものを利用 できる。 議論の中で合意点を要約し、話の焦点を整えることができる。
	B1.1	誰かが述べたことを部分的に繰り返して、互いの理解を確認し、計画どおり話が展 開するのに寄与できる。他の人を話合いに誘い入れることができる。
A2	A2.2	理解していることを身振りで示すことができる。
	A2.1	
A1		利用できる言語能力記述文はない。

方略（相互行為）　【説明を求めること】

C2		B2 と同じ。
C1		B2 と同じ。
B2	B2.2	相手の発言を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、曖昧な点の説明を 求めることができる。
	B2.1	
B1	B1.2	誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、詳しく説明するよう人に求めることができ る。
	B1.1	
A2	A2.2	分からないときは、繰り返してもらうよう単純な表現で頼むことができる。 手持ちの表現を使って、理解できていないキーワードや表現の意味の説明を求め ることができる。
	A2.1	理解できないと言うことができる。
A1		利用できる言語能力記述文はない。

C×M

方略Can do を参考に作成したルーブリックの例

例：Y校の「インタビュー活動」の自己評価表（方略Can do）

☑しましょう！	できた😊	まぁまぁ😐	できなかった😢
自分の話を他の話し手の話に関連付けることができる。			
自分の理解したことを確認したり、他の人の発言を誘ったりし て、議論を進展できる。			
相手の発言を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、曖昧な点の説明を求めることができる。			
分からないときは、繰り返してもらうよう単純な表現で頼むことができる。			

※「日本語教育の参照枠」のCan doに基づき、文言を調整して、独自のルーブリックを作成することができる。

〈参考資料①：「モジュールボックス」を活用したカリキュラムデザイン例〉

（以下、赤枠の A1～A2 レベル、A2 レベル、B1 レベル、B2 レベルの４例）

※「こんな授業がしてみたい」という委員の思いを反映させたカリキュラムの例です。

● **コースフレームワークの「①原型モデル」**の一部（２年間分）を選択し、コマ数を加えてみた例：

時間	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）	３か月（180 コマ）
学習段階	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾
参照枠レベル	A1～A2	A2	A2～B1	B1	B1	B1～B2	B2	B2

※学習時間の規定は 760 単位時間／年であるため、３か月 190 単位時間が相当ですが、課外学習等の時間数を 10 単位時間と見なし、ここでは授業時間数を 180 単位時間としています（１単位時間＝１コマ）。

参考：３か月（180 コマ）のコマ割り　　＊１コマ＝45 分

週	月	火	水	木	金	計
1w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
2w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
3w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
4w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
5w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
6w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
7w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
8w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
9w	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	４コマ	20 コマ
						180 コマ

A1～A2 レベルの例

〈基本 10 モジュール〉　＊赤字＝優先的に選択したモジュール

①授業／講義に参加できる　②グループ活動に参加できる　③試験の準備・対策ができる　④面接・面談が受けられる

⑤情報収集ができる　⑥情報発信ができる　⑦問い合わせができる　⑧社交ができる　⑨手続きができる　⑩楽しむことができる

週	基本モジュール	活動 Can do テクスト Can do	主な【カテゴリー】	主な授業活動（課題／タスク）	参考（言語知識など）
1w	**授業／講義に参加できる①** **情報発信ができる⑥** **問い合わせができる⑦** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・読む ・聞く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【総合的な口頭発話】 【包括的な読解】 【世情を把握するために読むこと】 【包括的な聴解】 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】	・クラスメート、教職員へのあいさつ ・クラスメートへの自己紹介 ・教師の指示による行動 ・学内の教室、利用可能な設備の場所等の確認	語彙・文字： 挨拶、教室の指示、学内案内、掲示物　等 文法： N は N です　N から来ました これ／それ／あれは～です ここ／そこ／あそこは～です V ましょう　等
2w	**問い合わせができる⑦** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・読む ・聞く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【製品やサービスを得るための取引】 【包括的な読解】 【世情を把握するために読むこと】 【包括的な聴解】 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】	・1 週間の時間割、教室、担当教員確認 ・事務所での質問	語彙・文字： 科目名、教室番号、時間、曜日等 文法： ～は～時から～時までです ～は～曜日です　等
3w	**情報収集ができる⑤** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・読む	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【製品やサービスを得るための取引】 【目的達成のための協同作業】 【包括的な読解】 【世情を把握するために読むこと】	・昼ごはんについて情報収集 （レストラン、コンビニ、スーパーなど） ・昼ごはんの相談 ・友達と昼ごはんを食べに行く	語彙・文字： 看板、案内、メニュー　等 文法： これ／それ／あれは～です ～は～円です V ませんか・V ましょう　等

4w	**問い合わせができる⑦** **手続きができる⑨** **情報発信ができる⑥** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・読む ・書く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【情報の交換】 【製品やサービスを得るための取引】 【総合的な口頭発話】 【聴衆の前での講演】 【包括的な読解】 【世情を把握するために読むこと】 【総合的な書く活動】 【記録、メッセージ、書式】	・新入生歓迎会への参加申し込み ・新入生歓迎会で自分や出身地について自己紹介	語彙・文字： 日、時間、曜日 形容詞　等 文法： ～から来ました 形容詞修飾文　等
5W	**問い合わせができる⑦** **グループ活動に参加できる②** **情報収集ができる⑤** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・聞く ・話す（発表）	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【インタビューすること、インタビューを受けること】 【包括的な聴解】 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】 【総合的な口頭発話】 【聴衆の前での講演】	・新入生歓迎会で先輩の留学生活について聞く ・新入生歓迎会の感想を言う	語彙・文字： 動詞、形容詞　等 文法： （場所）でＮをＶ　等
6w	**グループ活動に参加できる②** **情報収集ができる⑤** **情報発信ができる⑥** **手続きができる⑨**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・聞く ・読む ・書く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】 【製品やサービスを得るための取引】 【情報の交換】 【総合的な口頭発話】 【聴衆の前での講演】 【包括的な聴解】 【世情を把握するために読むこと】 【総合的な書く活動】 【記録、メッセージ、書式】	・学校の近くの公共施設利用 ・公共交通手段の利用 ・定期券を買う	語彙・文字： 乗り物、～線、所用時間　等 文法： （手段）でＮへ行きます／来ます／帰ります　等
7w	**グループ活動に参加できる②** **情報収集ができる⑤** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・聞く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【包括的な聴解】	・近くの観光地について情報を収集する （イベント、映画、スポーツ、博物館など） ・友達を外出に誘う／誘われる ・待ち合わせの相談	語彙・文字： 施設名、活動内容　等 文法： ～はＶたいです Ｖませんか・Ｖましょう　等

8w	**情報発信ができる⑥** **問い合わせができる⑦**	・話す（やり取り） ・書く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】【情報の交換】 【インタビューすること、インタビューを受けること】 【総合的な書く活動】 【記録、メッセージ、書式】	・遅刻・欠席・早退を伝える ・体の調子について相談する	語彙・文字： 遅刻、出席、欠席、早退、体調を表す語　等 文法： Vたいんですが… ～は～がAです　等
9w	**〈振り返り〉**			・今期の振り返りと各種 Can do チェック	

〈参考〉第１週目のカリキュラム例

週	**基本モジュール**	**活動 Can do** **テクスト Can do**	主な【カテゴリー】	**主な授業活動**（課題／タスク）	**参考**（言語知識など）
1w	**授業／講義に参加できる①** **情報発信ができる⑥** **問い合わせができる⑦** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・読む ・聞く	【一般的な話し言葉のやり取り】 【対話相手の理解】【会話】 【情報の交換】 【総合的な口頭発話】 【包括的な読解】 【世情を把握するために読むこと】 【包括的な聴解】 【広報・アナウンスや指示を聞くこと】	・クラスメート、教職員へのあいさつ ・クラスメートへの自己紹介 ・教師の指示による行動 ・学内の教室、利用可能な設備の場所等の確認	語彙・文字： 挨拶、教室の指示、学内案内、掲示物　等 文法： ＮはＮです　Ｎから来ました これ／それ／あれは～です ここ／そこ／あそこは～です Ｖましょう　等

１週目

〈基本モジュール〉①授業／講義に参加できる　⑥情報発信ができる　⑦問い合わせができる　⑧社交ができる

〈Can do〉・自分に向けられた、注意深く、ゆっくり表現された質問や指示を理解できる。短い簡単な指示を理解できる。［話す（やり取り）A1］

・紹介や基本的な挨拶、いとまごいの表現を使うことができる。［話す（やり取り）A1］

・簡単な質問を聞いたり、答えたりすることができる。直接必要なこと、若しくはごく身近な話題についての簡単なことを、自分から言ったり、相手の言ったことに反応できる。［話す（やり取り）A1］

・自分自身や他人の住まい、知人、所有物などについて質問を受けたり、答えたりすることができる。［話す（やり取り）A1］

・人物や場所について、単純な語句を並べて、述べることができる。［話す（発表）A1］

・日常のよくある状況下で、簡単な掲示の中から身近な名前や語、基本的な表現が分かる。［読む A1］

・意味が取れるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえれば、発話を理解できる。［聞く A1］

・当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。［聞く A1］

1 コマ=45 分	月	火	水	木	金
1コマ目	語彙: あいさつ、教室のことば①	語彙: あいさつ、教室のことば②	話す(発表)・聞く: 自己紹介③	語彙: 学内で利用可能な備品	語彙・文字の復習
2コマ目	話す(やり取り): 自己紹介①	話す(やり取り): 自己紹介②	語彙: 数字・教室番号・学内の施設(事務室、教員室、保健室、自習室、トイレなど)	話す(やり取り): 利用可能な場所・物	文法の復習
3コマ目	文法・話す(やり取り): ・V ましょう ・N は N です	文法・話す(やり取り): ・〜から来ました	話す(やり取り): 教室の場所	文法・話す(やり取り): ・これ/それ/あれは〜です ・〜は何ですか	話す(やり取り)の復習: ・事務室で質問する
4コマ目	文字: 名前の読み方・書き方 ネームカードを作る	文字: 国・都市名の読み方・書き方	文法: ・ここ/そこ/あそこは○○教室です	文字: 学内の場所や物の読み方・書き方	振り返り: Can do チェック (セルフ/ピアチェック)

A2 レベルの例

〈基本 10 モジュール〉　＊赤字＝優先的に選択したモジュール

①授業／講義に参加できる　②グループ活動に参加できる　③試験の準備・対策ができる　④面接・面談が受けられる

⑤情報収集ができる　⑥情報発信ができる　⑦問い合わせができる　⑧社交ができる　⑨手続きができる　⑩楽しむことができる

週	基本モジュール	活動 Can do テクスト Can do	主な【カテゴリー】	主な授業活動（課題／タスク）	参考（言語知識など）
1w	**社交ができる⑧** **情報発信ができる⑥**	・話す（やり取り） ・書く ・話す（発表）	【情報の交換】 【創作】 【聴衆の前での講演】	・家族／親族の紹介 ・趣味や特技の紹介 ・SNS や動画サイトでの自己紹介	語彙・文字： 親族、職業、趣味・特技　等 文法： V ています V+こと　等
2w	**情報収集ができる⑤** **社交ができる⑧**	・読む ・話す（やり取り） ・書く	【世情を把握するために読むこと】 【情報の交換】【非公式の議論】 【記録、メッセージ、書式】	・イベント情報の収集 （イベント、映画、スポーツ、博物館など） ・友達を外出に誘う／誘われる ・待ち合わせの相談 ・待ち合わせの問題を解消（遅刻、迷子など）	語彙・文字： 公共施設、各種形容詞　等 文法： V ことがあります V そうです（伝聞） ～て／ので（理由）　等
3w	**情報収集ができる⑤** **手続きができる⑨**	・聞く ・読む ・話す（やり取り） ・テクスト	【広報・アナウンスや指示を聞くこと】 【世情を把握するために読むこと】 【説明書を読むこと】 【製品やサービスを得るための取引】 【テクストの処理】	・外出先でアナウンスを聞く ・外出先で看板や案内板などを読む ・外出先でわからないことを尋ねる （駅や受付などで） ・必要に応じてメモを取る	語彙・文字： 看板、案内、位置　等 文法： 名詞修飾文 ［名称］という N ～と読みます ～という意味です　等
4w	**問い合わせができる⑦** **社交ができる⑧**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・書く	【製品やサービスを得るための取引】 【会話】【情報の交換】 【長く一人で話す：経験談】 【記録、メッセージ、書式】 【創作】	・買い物をする （外出先のグッズやお土産など） ・友達や先生にお土産を渡す／もらう ・週末にどこで何をしたかを伝える ・週末の様子を SNS に投稿する	語彙・文字： 商品、色、大きさ　等 文法： 名詞修飾文 N をもらい／くれました　等

5w	**グループ活動に参加できる②** **情報収集ができる⑤** **楽しむことができる⑩**	・話す（やり取り） ・読む ※1w～4w のほぼ全ての活動	【情報の交換】 【世情を把握するために読むこと】	・クラスメートと出かける計画を立てる （行き先の相談と情報収集） ・計画に沿って実際に出かける	※1w～4w の総復習
6w 7w	**グループ活動に参加できる②** **情報発信ができる⑥** **授業／講義に参加できる①**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・聞く ・テクスト	【目的達成のための協同作業】 【聴衆の前での講演】 【包括的な聴解】 【テクストの処理】	・クラスメートとの外出を報告（1） ・グループ発表の準備 ・スライドを使った発表 ・他のグループの発表を聞く、メモする	※1w～4w の総復習
8w	**グループ活動に参加できる②** **情報発信ができる⑥**	・話す（やり取り） ・書く	【目的達成のための協同作業】 【創作】	・クラスメートとの外出を報告（2） ・グループで学校ホームページに寄稿	※1w～4w の総復習
9w	**〈振り返り〉**			・今期の振り返りと各種 Can do チェック	

〈参考〉第 1 週目のカリキュラム例

週	**基本モジュール**	**活動 Can do** **テクスト Can do**	主な【カテゴリー】	**主な授業活動**（課題／タスク）	**参考**（言語知識など）
1w	**社交ができる⑧** **情報発信ができる⑥**	・話す（やり取り） ・書く ・話す（発表）	【情報の交換】 【創作】 【聴衆の前での講演】	・家族／親族の紹介 ・趣味や特技の紹介 ・SNS や動画サイトでの自己紹介	語彙・文字： 親族、職業、趣味・特技　等 文法： V ています V+こと　等

1 週目

〈基本モジュール〉 ⑧社交ができる　⑥情報発信ができる

〈Can do〉 ・個人的な情報を求めたり、提供したりできる。[話す（やり取り）A2.1]

・習慣や日常の仕事、娯楽や過去の活動について質問をし、答えることができる。[話す（やり取り）A2.2]

・自分の周りにある日々のいろいろな事柄、例えば、人物、場所、仕事や学習経験などについて、つながりのある文を書くことができる。[書く A2.2]

・身近な話題について、リハーサルをして、短い基本的なプレゼンテーションができる。[話す（発表）A2.1]

1 コマ=45 分	月	火	水	木	金
1コマ目	語彙： 親族、職業、性格	語彙： 趣味・特技	語彙： 私の語彙	聞く： 生の自己紹介動画の視聴 （良い点・悪い点を考察）	語彙・文字の復習
2コマ目	話す（やり取り）： 家族や友達の紹介	話す（やり取り）： 趣味や特技の紹介	書く： SNS に自己紹介を入力 （セルフ／ピアチェック含む）	話す（発表）： 自己紹介動画の作成 ・準備 ・録画 ・加工（オプション）	文法の復習
3コマ目	文法・話す（やり取り）： ・～ています ・場所を表す助詞：に・で ・A い／な人、N は A です	文法・話す（やり取り）： ・V ことが好き・得意です ・趣味・特技は V ことです ・可能形	読む・書く： みんなの自己紹介を読んで コメントを付ける		話す（やり取り）の復習： ・家族／友達の紹介 ・趣味や特技の紹介
4コマ目	文字： 親族、職業など	文字： 趣味・特技、動詞など	文字・語彙： ・私の文字 ・新しく知った文字、語彙	話す（発表）・聞く： みんなの動画を視聴して、コメントを付ける	振り返り： Can do チェック （セルフ／ピアチェック）

B1 レベルの例

〈基本 10 モジュール〉　＊赤字＝優先的に選択したモジュール

①授業／講義に参加できる　②グループ活動に参加できる　③試験の準備・対策ができる　④面接・面談が受けられる

⑤情報収集ができる　⑥情報発信ができる　⑦問い合わせができる　⑧社交ができる　⑨手続きができる　⑩楽しむことができる

週	基本モジュール	活動 Can do テクスト Can do 方略 Can do	主な【カテゴリー】	主な授業活動（課題／タスク）	参考（言語知識など）
1w	**①授業／講義に参加できる** **⑤情報収集ができる**	・聞く ・テクスト ・方略（受容） ・方略（やり取り）	【聴衆の一人として生で聞くこと】 【ノート取り】【テクストの処理】 【手掛かりの発見と推論】 【説明を求めること】	・クラスメートのあるテーマのプレゼンテーションを聞いて文でメモを取る。 ・中級の教材、やさしい日本語のニュース、教員のやさしい日本語の話を聞いてメモを取る。	・ノート取りの文体や箇条書きのし方 ・自律学習や進路計画指導と組み合わせた活動を実施
2w	**②グループ活動に参加できる**	・聞く ・話す（やり取り） ・方略（受容） ・方略（やり取り）	【包括的な聴解】 【他の話者同士の対話の理解】 【目的達成のための共同作業】 【手掛かりの発見と推論】 【発言権の取得／保持】 【協力】 【説明を求めること】	・授業の中で各種グループ活動を行う。 ・授業のテーマに関するプロジェクトワークを行う。 ・ジグソーリーディングなどの協働的な手法で行われる学習活動を行う。	・それぞれの活動において、リーダーなど役割分担を決めて、主体的な学習活動／協働活動を促す。 （例：文法規則を発見する、漢字の学習方法を工夫する 等）
3w	**③試験の準備・対策ができる** **④面接・面談が受けられる** **⑤情報収集ができる**	・話す（発表） ・話す（やり取り） ・方略（産出）	【長く一人で話す：経験談】 【インタビューすること、インタビューを受けること】 【計画】【補償】 【モニタリングと修正】	・「私の夢」についてのマインドマップを書いて、それを見せながらペアで話す。 ・言語学習のアドバイジングを受ける。	・時系列や理由を述べるときの文章構成
4w	**⑦問い合わせができる** **⑨手続きができる** **⑩楽しむことができる**	・読む ・書く ・話す（やり取り） ・方略（受容）	【説明書を読むこと】 【一般的な話し言葉のやり取り】 【製品やサービスを得るための取引】 【説明を求めること】	・実際に施設の利用について理解した上で、申し込みをする（電話やメール） ※教師が説明や橋渡しをしながら実施	・電話やメールなどで使われる定型表現

5w	**⑥情報発信ができる** **⑧社交ができる**	・話す（発表） ・話す（やり取り） ・方略（産出）	【総合的な口頭発表】 【一般的な話し言葉のやり取り】 【目的達成のための協同作業】 【計画】【補償】	・自分の国の文化の紹介、やりとり質疑応答 ・自分の好きなものについての発表 ・国際理解教室などでの自国の紹介	・文化、習慣、趣味に関する語彙 ・文化紹介をする際の表現（～のような味です 等）
6w	**⑧社交ができる**	・話す（やり取り） ・方略（相互行為）	【一般的な話し言葉のやり取り】 【発言権の取得／保持】 【協力】 【説明を求めること】	・地域の方（ゲストスピーカー）と雑談	・丁寧な自己紹介 ・あいづち ・会の始まりと終わりの挨拶表現
7w	**③試験の準備・対策ができる** **⑨手続きができる**	・聞く ・読む ・書く ・方略（受容） ・方略（産出）	【包括的な聴解】 【包括的な読解】 【総合的な書く活動】 【レポートやエッセイ】 【手掛かりの発見と推論】 【モニタリングと修正】	・試験に向けてスケジュールや対策を立てる ・各種試験の申し込み・手続きを行う ・各種試験の模擬試験に取り組み、対策を検討する ・試験に出そうな語彙・表現について検討する	・出願に係る語彙、表現（消印有効、必着 等） ・ICT スキル
8w	**⑧社交ができる** **⑩楽しむことができる**	・聞く ・読む ・話す（やり取り） ・書く	【包括的な聴解】 【包括的な読解】 【一般的な話し言葉のやり取り】 【総合的な書く活動】 【レポートやエッセイ】	・読む活動（多読や再読）の後、お互いの理解や感想などについて対話する ・聞く活動（歌やインタビュー）の後、お互いの理解や感想などについて対話する	・読む／聞く素材の領域やテーマに関する語彙・表現
9w	**⑤情報収集ができる** **⑩楽しむことができる**	聞く 読む 話す（やり取り） 書く	【包括的な聴解】 【包括的な読解】 【一般的な話し言葉のやり取り】 【総合的な書く活動】 【レポートやエッセイ】	・やさしい日本語のニュースを聞く ・新聞から情報をスキャニングする	・ニュースや新聞に出てくる語彙・表現

〈参考〉第６週目のカリキュラム例

週	基本モジュール	活動 Can do テクスト Can do 方略 Can do	主な【カテゴリー】	主な授業活動（課題／タスク）	参考（言語知識など）
6w	⑧社交ができる	・話す（やり取り） ・方略（相互行為）	【一般的な話し言葉のやり取り】 【発言権の取得／保持】 【協力】 【説明を求めること】	・地域の方（ゲストスピーカー）と雑談	・丁寧な自己紹介 ・あいづち ・会の始まりと終わりの挨拶表現

６週目

〈基本モジュール〉⑧社交ができる

〈Can do〉・身近な話題についての会話なら準備なしに参加できる。［話す（やり取り）B1］

・時には特定の単語や表現の繰り返しを求めることもあるが、日常的会話で自分に向けられたはっきりと発音された話は理解できる。［話す（やり取り）B1］

・時には言いたいことが言えない場合もあるが、会話や議論を続けることができる。［話す（やり取り）B1］

・驚き、幸せ、悲しみ、興味、無関心などの感情を表現し、また相手の感情に反応することができる。［話す（やり取り）B1］

・誰かが今言ったことの意味を明らかにするよう、詳しく説明するよう人に求めることができる。［相互行為の方略：説明を求めること B1］

・なじみのある話題や、個人的興味のある話題なら、対面での簡単な会話を始め、続け、終らせることができる。［相互行為の方略：発言権の取得／保持 B1.1］

＊能力 Can do［言語能力：音素の把握 B1］［社会言語能力：社会言語的な適切さ B1］にも着目する。

1 コマ=45 分	月	火	水	木	金
1コマ目	聞く・語彙： 自己紹介に使う語彙 ＊導入に動画や録音を使用	聞く・語彙： 趣味や出身についての語彙 ＊導入に動画・録音を使用	語彙： 私の語彙	ゲストスピーカーと雑談	聞く： 話した録音を聞きながら、振り返り
2コマ目	聞く・文法： 自己紹介に必要な文法 ＊導入に動画や録音を使用	聞く・文法： 趣味や出身に必要な文法 ＊導入に動画や録音を使用	文法： 私の文法		
3コマ目	話す（やり取り）： あいづち、リアクションの練習	話す（やり取り）： 言葉の意味について説明を求める	話す（やり取り）： 地域の方を教室に招く 会を終える時の表現を学習	話す（発表）・聞く： クラス内で話した内容と感想を 1 分程度で発表し、それをメモする	書く： 感想を書く
4コマ目	文字、書く： 名前の漢字	文字・書く： 趣味や出身に関する漢字	文字・書く： 私の文字		振り返り： Can do チェック （セルフ／ピアチェック）

B2 レベルの例

〈基本 10 モジュール〉　＊赤字＝優先的に選択したモジュール

①授業／講義に参加できる　②グループ活動に参加できる　③試験の準備・対策ができる　④面接・面談が受けられる

⑤情報収集ができる　⑥情報発信ができる　⑦問い合わせができる　⑧社交ができる　⑨手続きができる　⑩楽しむことができる

週	基本モジュール	活動 Can do テクスト Can do	主な【カテゴリー】	主な授業活動（課題／タスク）	参考（言語知識など）
1w	**グループ活動に参加できる②** **授業／講義に参加できる①** **手続きができる⑨**	・話す（やり取り） ・聞く	【公式の議論とミーティング】 【包括的な聴解】	・クラスの約束事を決める ・授業に参加し、選択科目を確定する ・科目登録変更の手続きをする	・方略（相互行為）【協力】
2w	**情報収集ができる⑤** **グループ活動に参加できる②**	・読む	【世情を把握するために読む】 【情報や議論を読む】	・大学、専門学校の学校情報を調べる ・オープンキャンパスや入試説明会に参加し、質問したいことを考える	・方略(相互行為)【説明を求める】
3w	**試験の準備・対策ができる③** **面接・面談が受けられる④**	・書く ・話す（やり取り）	【レポートやエッセイ】 【インタビューすること、インタビューを受けること】	・試験に出そうな語彙のピックアップ活動 ・志望理由書や研究計画書を作成する ・面接の予想問答集の作成、模擬面接	・語彙能力・音声能力 ・方略（産出）【計画、モニタリングと修正】
4w	**手続きができる⑨** **問い合わせができる⑦**	・話す（やり取り）	【情報の交換】 【製品やサービスを得るための取引】	・進学や就職を想定した必要な各種手続きの練習 ・学校の事務室を訪問し、手続きを行う練習	・社会言語能力【社会言語的な適切さ】
5w	**グループ活動に参加できる②**	・話す（やり取り） ・書く	【公式の議論とミーティング】 【記録、メッセージ、書式】	・文化祭の企画 ・テーマ、構成、ルール決定 ・会議、議事録作成 ・各クラスを回り、参加の呼びかけ	
6w	**情報収集ができる⑤** **グループ活動に参加できる②** **授業／講義に参加できる①**	・話す（やり取り） ・聞く	【目的達成のための協同作業】 【聴衆の一人として生で聞くこと】	・自治体に SDGsの政策提案をする（1） ・グループで現状を調べる ・自治体の出前授業を聞く ・提案内容を考える	・社会的な視点

7w	**情報発信ができる⑥** **グループ活動に参加できる②**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・書く	【目的達成のための協同作業】 【聴衆の前での講演】 【レポートやエッセイ】	・自治体に SDGsの政策提案をする（2） ・グループで発表準備 ・スライド、原稿作成 ・クラスで模擬発表 →ピアでコメント・改善 ・ゲストを招いて発表、振り返り	・社会言語能力：聞き手への配慮
8w	**楽しむことができる⑩**	・話す（やり取り） ・話す（発表） ・書く	【情報の交換】【非公式の議論】 【総合的な口頭発話】 【記録、メッセージ、書式】	・文化祭の準備 ・スケジュール策定 ・役割分担 ・出し物の調整 ・リハーサル実施	
9w	**楽しむことができる⑩**	・話す（やり取り） ・書く	【情報の交換】【非公式の議論】 【記録、メッセージ、書式】	・文化祭の運営・実施 ・準備、進行、片付け、会計報告、礼状	・音声能力

〈参考〉第６週目のカリキュラム例

週	**基本モジュール**	**活動 Can do** **テクスト Can do**	主な【カテゴリー】	**主な授業活動**（課題／タスク）	**参考**（言語知識など）
6w	**情報収集ができる⑤** **グループ活動に参加できる②** **授業／講義に参加できる①**	・話す（やり取り） ・聞く	【目的達成のための協同作業】 【聴衆の一人として生で聞くこと】	・自治体に SDGsの政策提案をする（1） ・グループで現状を調べる ・自治体の出前授業を聞く ・提案内容を考える	・社会的な視点

6週目
〈基本モジュール〉⑤情報収集ができる　②グループ活動に参加できる　①授業／講義に参加できる
〈Can do〉・ざっと目を通しただけで、長い複雑なテクストの重要事項を見定めることができる。［読む B2］
・幅の広い専門的な話題についての情報や記事、レポートの内容やその重要度をすぐに見抜き、綿密な読解の価値があるどうかを決めることができる。［読む B2］
・活発な議論に付いていき、支持側と反対側の論理を的確に把握できる。［話す（やり取り）B2］
・自分の考えや意見を正確に表現できる。また、複雑な筋立ての議論に対し、説得力を持って見解を提示し、対応できる。［話す（やり取り）B2］
・身近な状況での非公式の議論に積極的に参加し、コメントすること、視点をはっきり示すこと、代替案を評価すること、仮説を立て、また他の仮説に対応することができる。［話す（やり取り）B2.1］
・内容的にも言語的にも複雑な講義、話、報告、そのほかの学問的／専門的なプレゼンテーションの要点は理解できる。［聞く B2］
＊能力 Can do［言語運用能力：柔軟性 B2.2］［社会言語能力：社会言語的な適切さ B2.2］にも着目する。

1コマ=45分	月	火	水	木	金
1コマ目	読む： SDGsに関する読み物を読む	聞く： SDGsに関する動画を視聴する	話す（やり取り・発表）： 調べたことを簡単にシェアする	話す（やり取り）： 出前授業を聞いて感じたことをシェアする	話す（やり取り）： ・政策提案の内容詳細を決める ・発表に向けた役割分担・準備をする
2コマ目	話す（やり取り）： 読んだ内容について話し合う	話す（やり取り）： 聞いた内容について話し合う	書く： 出前授業でテーマに関して聞いてみたい質問を考える	話す（やり取り・発表）： ・留学生の立場から自治体に行う政策提案のテーマ・内容概要をグループで話し合って決める ・決まった内容を全体に簡単にシェアする	
3コマ目	話す（やり取り）： SDGsに関する身近な問題を話し合う	読む・話す（やり取り）： グループでSDGsの現状を調べる	聞く・話す（やり取り）： ・自治体の出前授業を聞く ・聞いた内容について質疑応答		話す（やり取り・発表）： ここまでで決まったことをシェアする
4コマ目	文法・語彙： 読み物や動画で出てきた文法・語彙・表現を確認・復習			語彙： SDGsについて学んだ語彙を振り返り、復習する	振り返り： ルーブリック、振り返りシート、ポートフォリオ

※次頁に、このB2レベル・第6週目の活動のルーブリックを例示しています。合わせてご参照ください。

● ルーブリックを用いた B2.1 の活動と評価の例

レベル：B2.1

科目：発信表現（発表）　　スキル：話すこと（発表）＋書くこと

科目（発信表現B2.2・発表）のCan Do：留学生としての最低限の教養範囲の、複雑でない社会的・文化的なテーマについて、聴衆を意識しつつ、聞き手に伝わる口頭発表ができる。

この活動のCan Do：世界的に課題となっているテーマ（たとえば、温暖化、ゴミ問題等）について、予備知識のない聞き手にも伝わるように視覚情報を使って具体的にわかりやすく発表することができる。

パフォーマンス・タスク：地域の小学校との交流活動で、4年生の児童30人に「温暖化を防ぐために、私の国・地域でやっていること」というテーマで話をしてほしいという依頼がありました。スライドと発表原稿を作成し、8分程度でわかりやすく話してください。

評価方法：活動前にルーブリック提示、活動後に自己評価、ピア評価、教師評価を行い、点数化。聞き手である小学生にも別のルーブリック（非公開）で評価してもらう。
評価尺度の意味：S＝到達目標を超え、更に＋αの要素を含む、A＝到達目標をクリアしている、B＝到達目標にやや届かない、C＝到達目標に全く届かず、学び直しが必要。
合計点：S＝150～101点、A＝100～80点、B＝79～60点、C＝59～0点　　計60点以上で合格。

Can Doの種類 ＼ 評価尺度 ／ 評価観点		S（すばらしい！）	A（できた！）	B（あと一歩）	C（もう一度）	得点
活動：産出・話すこと（発表）	①論理性	温暖化の原因・影響・対策の論理的なつながりが、全く予備知識がない人にも十分に伝わるほど明瞭だった。（30点）	温暖化の原因・影響・対策の論理的なつながりが、ほとんど予備知識のない人にもある程度伝わるほど明瞭だった。（20点）	温暖化の原因・影響・対策を述べたが、予備知識があっても論理的なつながりが見えにくかった。（10点）	温暖化の原因・影響・対策のいずれかを述べなかった。（0点）	
	②内容の具体性	自分の国・地域で何をやっているかをきわめて具体的に、はっきりイメージできるように説明できた。（30点）	自分の国・地域で何をやっているかを具体的に説明できた。（20点）	自分の国・地域で何をやっているかを述べたが、ややわかりにくかった。（10点）	自分の国・地域で何をやっているか、全く伝わらなかった。（0点）	
活動：仲介	③対象に合う身近な例	小学生の生活に即した非常に身近な例を挙げた。（15点）	小学生の生活を意識して、身近な例を挙げた。（10点）	小学生の生活をあまり意識していないが、例を挙げて話した。（5点）	例を挙げないで、抽象的に話した。（0点）	
	④対象に合わせた表現	小学4年生が対象であることを明確に意識して語彙・表現を巧みに調整した。（15点）	小学4年生が対象であることを意識して語彙・表現の調整に注意を払った。（10点）	不十分ながらも、小学生向受けに語彙・表現を調整しようと意識している。（5点）	語彙・表現を調整しようとする意識が見られず、大人に話すときと変わらない。（0点）	
方略	⑤分かりやすく伝える工夫	身振りや目的に合った写真やイラスト入りのスライドを使ったり質問をしたりして、聴衆を巻き込む工夫があった。（15点）	写真やイラスト入りのスライドを見せて、伝わる工夫をした。（10点）	写真入りのスライドを見せたが、使い方があまり効果的ではなかった。（5点）	文字だけのスライドを使うなど、伝えるための工夫がなかった。（0点）	
テクスト	⑥話す前提で書くこと	小学生30人に話すことを明確に意識し、ごく自然に話しかけるようなスタイルの原稿が書けた。（15点）	小学生に話すことを意識し、耳で聞いてわかる原稿が書けた。（10点）	話すことをある程度意識し、耳で聞いて概ねわかる原稿が書けた。（5点）	話すことを意識しておらず、耳で聞いたときに理解しにくい原稿になった。（0点）	
能力	⑦音声と流暢さ	日本語らしい自然な音声で落ち着いて流暢に話すことができ、キーワードは非常に明瞭で、音声で気になるところはほとんどない。（15点）	概ね日本語らしい自然な音声で、落ち着いて話すことができ、キーワードは十分に明瞭で、音声で気になるところは１，２箇所以内。（10点）	流暢さはないものの、キーワードの伝達にほぼ支障のない音声で、気になるミスは数か所。（5点）	たどたどしく、音声に強いクセがあり、キーワードが全く伝わらない。（0点）	
	⑧文法・語彙の正確性	文法・語彙が正確で、影響や問題提起（影響は～や～をはじめ深刻です、～ことが問題になっています等）などの高度な表現を適切に使いこなしており、誤りはほとんどない。（15点）	文法・語彙がほぼ正確で、定義や対策を表す表現（～とは～のことです、～を防ぐためには～が必要です等）を適切に使っており、些細なローカルエラーを除けば誤りはほとんどない。（10点）	文法・語彙がかなり不正確で、コミュニケーションに支障をきたすグローバルエラーがあり、何がどうしたのか事実関係が十分に伝わらない部分がある。（5点）	文法・語彙のミスが非常に多い、または重大なグローバルエラーが複数あり、言いたいことが伝わらない。（0点）	
評価尺度ごとの得点合計／満点		／150点	／100点	／50点	／0点	合計　点

※聞き手（小学生）がチェックする評価表の例

聞き手用ルーブリック（B2.1 の活動と評価の例）

ABC ポイント	A（できた！）	B（あと一歩）	C（もう一度）	得点
① 内容	例もわかりやすくて、温暖化の話しがとてもよくわかった。（20 点）	例はあったが、温暖化の話しがあまりよくわからなかった。（10 点）	温暖化の話が、ぜんぜんわからなかった。（0 点）	点/20
② スライド	写真やイラストが、話の内容にぴったりで、とてもわかりやすかった。（10 点）	写真やイラストがあったが、使い方があまりよくなかった。（5 点）	写真やイラストが話の内容と合っていなかった。（0 点）	点/10
③ 話し方	やさしい言葉を使って話した。とてもよくわかった。（20 点）	時々、むずかしい言葉があったが、だいたいわかった。（10 点）	わからない言葉が多くて、ほとんどわからなかった。（0 点）	点/20
				合計　　点/50

〈参考資料②：「基本 10 モジュール」の学習活動例・教材例〉

モジュール1）授業／講義に参加できる		教材等
事例1 【B2】	【博物館・美術館での学芸員さんの作品解説】 博物館や美術館の学芸員・案内員の話を聞いてメモをとり、レポートを作成することができる。 ① 事前に展示のテーマについての専門用語などを学ぶ。 ② 当日はメモを取りながら話を聞き、わからない部分は質問する。最後にワークシート提出。写真撮影可なら気になった作品・展示を写真に撮っておく。 ③ 写真をパドレットなどで共有し、感想や理解したことを話し合う。 ④ 活動のまとめとしてレポートを作成する。	・聞いた内容をメモし、その後文章にまとめるワークシート
事例2 【B1】	【オリエンテーションや発表を聞いてメモを取る】 先生のやさしい日本語での話（進学や就職についてのオリエンテーションなど）、クラスメートのあるテーマについてのプレゼンテーションなどを聞いてメモをとることができる。 ① 自身の発表活動も実施する場合は、自分のプレゼンテーションを準備する。 ② 当日はメモを取りながら話を聞き、わからない部分は質問をする。 ③ 活動後、ワークシートにメモしたことを文でまとめ、提出。	・聞いた内容をメモし、その後文章にまとめるワークシート
事例3 【A2】	【メモしながら聞こう】 クラスメートの身近な話題（趣味や家族など）についてのプレゼンテーションなどを聞いてメモができる。 非母語話者向けのオリエンテーションなどで少し長い話について、強調・繰り返された大事な部分をメモできる。わからなければ質問ができる。 ① 自身の発表活動も実施する場合は、まずは自分が話す内容を考え、文章にする。 ② わからない場合の質問の仕方を教える。 ③ 当日聞き取れた言葉をメモする。単語単位でよい。 ④ 聞き取れた言葉を使いながら、内容を復習する。	・聞いた内容をメモするワークシート
事例4 【A1】	【メモを取る・ディクテーション】 新入生向けのオリエンテーション（中国語や英語などが混じった状態）や毎日の授業前のウォーミングアップや復習などで聞いた言葉をメモできる（ディクテーション）。 ① 教師はゆっくりはっきり、単語や単文を読み上げる。 ② 学習者は聞いてワークシートに記入する。 ③ 教師は記入したものを添削する。	・聞いた言葉を書くワークシート

モジュール2）グループでの活動に参加できる		教材等
事例1 【B2】	【公共広告などの映像作品を作成する】 決まった答えのない創造的な課題やその場で状況が変化する活動などに対して、自身及びメンバーの考えの違いがあったとしても、それぞれの役割を認識しながら集団を課題達成の方向に向かわせることができる。 ① 公共広告の例を視聴する。 ② グループで現在の生活や日本社会の中でどのような問題があるか話し合い、どのようなテーマの公共広告を作成するかを考える。 ③ ②のアイディアについて、他グループに案をプレゼンし、意見を求める。 ④ ③の意見をもとに映像の構成や撮影場所を決定する。 ⑤ 仮撮影を行い、グループでアイディアを出す。 ⑥ 脚本等について、再度考えた上で本撮影を行う。 ⑦ 自分たちがテーマにどのような思いを込めて作成したかを、プレゼンする。 ⑧ 作品を上映する（公開する）。 ⑨ 質疑応答を受ける。作成時の苦労などを語る。	・公共広告の例 ・簡易プレゼンのプロットシート ・脚本作成用シート ・撮影用機材 ・映像編集ソフト ・プレゼン用スライド
事例2 【B1】	【何らかのテーマを持った CLIL 的な学習活動】 自身の性格や特性に応じたリーダーシップを発揮することができ、課題達成、あるいは集団の形成・維持に貢献することができる。また、やや高度で決まった答えのない課題に対して、議論や活動が迷走しそうな時に、流れを修正することができる。 ① テーマについてのアイディアを出し、同意や反論などを行いながら、自身のグループのアイディアを共同で練る。 ② ジグソーのように他グループに何人かが出向し、そこで他グループのアイディアなどを聞く。 ③ 元のグループに戻り、他グループで得たアイディアなどを共有する。 ④ 役割カード等で自身が中心に行う行為を決めた上で、話し合いを行う。 ⑤ 何らかの成果物を作るために ICT を含めた共同作業を行う。	・話し合いの役割を決めるためのカード （例：進行、アイディア、批判、ユーモア、ゲートキーピング・・・など）
事例3 【A2】	【何らかの学習単元で得た言語知識などについて、協働的な復習活動を行う】 必ずしも洗練された表現を用いるわけではないが、グループの形成・維持に貢献するようなふるまいができる。また、決まった答えがある課題でなくとも、メンバーの意見を聞きながら課題達成にグループ全体の方向を進めることができる。 ① 以前行った課題をもう一度一人でやってみる。 ② 学習の素材を視聴し、答えやヒントになりそうなものを探す。その上で、独力で課題をもう一度解く。 ③ 他メンバーにアドバイスをするためのメモを作る。 ④ ③のメモをもらって、もう一度課題を解く。 ⑤ 自身が一緒に学習したい人に声をかけ、ペア単位で課題を解く。 ⑥ ペア単位で一緒に学習したいペアに声をかけ、4 人で課題を解く。 ⑦ クラス単位に戻り、司会を含め、学習活動を学習者自体が進行する。 ⑧ 学習の素材を使いながら、教師が最終的な正解を提示する。	・過去の授業で使用した教材 ・メモシート ・復習用課題
事例4 【A1】	【様々な授業の中で行われる協働的なプロセス】 限られた言語能力であっても非言語コミュニケーション等を使いながら、メンバー、あるいはペア等の単位で課題達成に取り組むことができる。 ① 授業の中で行われる、何らかの言語的課題を達成する活動や、言語知識の有無や正確さを問う問題等について、同じ授業に参加する仲間に助言を求めたり、助言をしたりして、課題達成の支援を受けたり、与えたりすることができる。 例：文法のプリント、会話の穴埋め、ロールプレイ・・・等	・各授業で使用される教材

モジュール 3）試験の準備・対策ができる		教材等
事例1 【B2】	【模擬試験とグループでの対策会議】 模擬試験をし対策を検討することができる。 ① 学習者が受ける予定の模擬試験を実際と同じ時間配分で実施する。 ② 採点し、点数を出した後、自身の得意・不得意を分析シートにまとめる。 ③ グループでそれぞれの設問の解き方や回答に至った理由などを話し合う。 ④ それぞれの設問ではどんな問題が出ているのか、試験側の意図を考える。 ⑤ ここまでの話し合いをもとに、試験の対策としてどんな風に勉強したらよいか、またどんな問題や素材が出そうか話し合い、設問や科目ごとポスターツアーでの発表を行う。	・分析ワークシート
事例2 【B1】	【進路面談と進学相談会参加】 進路を具体化し、進路相談会に参加することができる。 ① まずは進路担当者と面談をし、学習者自身の進路（学部・院・専門学校・就職）、希望分野を明確にさせる。 ② 学びたいこと・したい仕事、進路、希望分野、今までの準備や経歴を自己分析シートにまとめる。 ③ 分野が似ている学習者でグループを作り、チラシから行きたい進学相談会を選ばせる。 ④ 実際に進学相談会に参加する。 ⑤ 参加後、興味を持った分野や学校について、興味を持った理由を1分でスピーチする。	・進学相談会チラシ
事例3 【A2】	【試験を知ろう】 サイトやチラシ、教員のやさしい日本語の説明を受けながら自分が受けるべき試験の概要について理解することができる。 ① PC 教室やスマホを使って、受けたい試験の実施日、申し込み開始、申し込み締め切り、合格発表日、受験料、出願時に必要なものについて調べさせる。（10 分程度で情報検索させる） ② 調べた項目について、教師は「いつですか」「いつから申し込めますか」などやさしい日本語で質問する。学習者はそれに口頭で答える。（ワークシートにまとめてもよい）	・各種試験チラシ
事例4 【A1】	【いろいろなテスト・評価】 学内で行われるいろいろなテストの形式を知る。 （復習テスト、パフォーマンス評価など） 様々なタイプの評価の仕方をこのレベルで一通り体験できるようにしておく。	・各種試験（校内で実施のもの）

モジュール 4）面接・面談が受けられる		教材等
事例1 【B2】	【模擬面接】 入試や就職面接において、ことばと態度で自分の良さや強い気持ちを表現し、面接官に良い印象を与えることができる。 ＊面接内容は、例えば、自己 PR1 分+その 1 分スピーチについての教師とのやりとり+指定質問 3 問などあらかじめ決めておく ① どうすれば面接官にいい印象を持ってもらうことができるか、具体的なポイントをグループで話し合う。 ② そのポイントをもとにグループで互いにチェックし合いながら面接練習を行う（入退室を含む）。 ③ 1 名 5 分で面接を行う（教師と学生が別室で／教室で皆の前で）。	・よく面接で聞かれる質問が書かれたワークシート ・面接のポイントを項目ごとに書き込むワークシート
事例2 【B1】	【私の夢ポスターセッション】 自分の夢について一貫性をもって説明することができ、相手からの予想しない質問に的確に、正確で具体的な情報を述べることができる。 ① 「私の夢」についてのマインドマップを書いて、それを見せながらペアで話す。 ② 夢の説明を聞いた学生はその内容についてさらに具体化できるよう質問する。 ③ 発展的に「私の夢」ポスターセッションを開催する。	・マインドマップを書くためのシート ・マインドマップ例
事例3 【A2】	【ロールプレイ①病院でのやりとり】 病院で簡単に症状を話したり、医者の指示を聞いたりすることができる。 ① ロールプレイ例を見る、読む。 ② グループで同じ流れで違う内容のロールプレイのせりふを考える。 ③ グループでロールプレイを練習する。 ④ 全体の前でロールプレイを発表する。	・病院でのやりとり例 ・やりとりを書き込むためのワークシート
事例4 【A1】	【先生に質問!】 事前に質問を準備すれば、ごく日常的な内容について質問し、回答を理解することができる。 ① 聞きたいことを考えて質問を準備する。 ② ペア練習：「私は毎日〇時に起きます。〇〇さんは何時に起きますか」のように自分のことを言って質問する練習をする。 ③ グループであらかじめ依頼しておいた教師にインタビューに行く。 ④ 教室に戻って、「〇〇先生は〇時に起きます」など、聞いてきたことを皆の前でレポートする。	・質問と教師の回答を書くためのワークシート

モジュール5）情報収集ができる		教材等
事例1 【B2】	【校外活動：年金事務所を訪問】 自分の知りたい情報を様々な方法で詳細に知ることができる。 ① 「年金」のシステムについて理解する。 ② 調べたことにより出てきた疑問をあげ、それについて情報を得る。 ③ 年金事務所などを訪問し、出てきた疑問や調べた内容について確認する。 ④ 「多くの外国人は年金についてどのように理解しているのか」などのテーマに沿ってリサーチする。	・調べた内容をメモするワークシート
事例2 【B1】	【深く理解する】 自分の知りたい詳細な情報を得ることができる。 ① 「年金」とは何か、そのシステムについて調べる。 ② 自国との違いを調べ整理する。 ③ 支払ったお金がどのように使われていくのか調べる。	・調べた内容をメモするワークシート
事例3 【A2】	【他者とのやりとりで情報を手に入れる】 自分の知りたい情報を教えてもらうことができる。 ① 「年金」とは何かを知る。 ② どのくらいの金額を支払うのか、いつ支払うのか知る。 ③ 支払方法を知る。	・質問内容や分かったことを書くワークシート
事例4 【A1】	【他者へ自分の要求を理解してもらう】 自分の要求（手に入れたいもの、ほしいもの）が何か、相手に分かってもらうことができる。 ① 自宅に来た郵便物を相手に見せ「これは何ですか」など学習した表現を使って聞く。 ② 相手の説明から最小限必要な情報をキャッチする。	・レアリア（郵便物） ・分かったことを書くワークシート

モジュール6）情報発信ができる		教材等
事例1 【B2】	【進学する際に要求される志望理由書を書く】 自分の興味関心があることや自分が知っている専門分野について、やや複雑な内容であっても、読み手の読みやすさに配慮した、結束性のある文章を書くことができる。 ① 自分の志望する学部、学科と自己の関わりについて、過去・現在・未来という観点から、関係性や自身の希望、ビジョンを簡単に言語化する。 ② 結束性を出すための表現（接続詞や文脈指示等）を使いながら、全体の構成を整える。 ③ 書いた文章を教師あるいはピアに読んでもらい、進学先の読み手に強い印象を残せるか、そのためにはどうすればいいか、内容面と形式面についてアドバイスをもらう。 ④ ③のフィードバックをもとに、内容と形式の推敲を行う。	・大学等の志望理由書 ・過去／現在／未来について考えるシート ・結束性を示す表現を紹介するスライドやシート ・フィードバックシート
事例2 【B1】	【「留学生スピーチコンテスト」「作文コンテスト」などの大会に参加する】 自分の興味関心があることであれば、複雑ではないがある程度の結束性をもった文章を書くことができる。 ① テーマに応じた内容について、マインドマップやキュービング、KJ 法などを用いてアイディアを出す。 ② ①で出したアイディアについての構成を考え、箇条書きで文を作成する。 ③ 結束性を出すための表現（接続詞や文脈指示等）を使いながら、全体の構成を整える。 ④ 必要に応じて、自身、ピア、教師からのフィードバックを元に文章を修正する。 ⑤ 実際にコンテストに応募する。	・コンテストの要項 ・構成を考えるためのシート ・結束性を出すための表現のシート ・フィードバックシート ・フィードバックを行うためのルーブリック
事例3 【A2】	【自国の観光名所等について簡単なプレゼンテーションを行う】 自分に関係のあることであれば、要点を繰り返したり、強調したりして、聞き手に上手く伝わるような工夫をしながら簡潔な発話で情報を伝えることができる。 ① 自国の観光名所について、どこを取り上げるかを決める。同じ国や地域の出身者がクラス内にいればグループで内容を考える。 ② 取り上げた観光地について、説明の文を作成する。 ③ ②の文に合うような写真等の素材を集め、プレゼンテーション用のスライドを作成する。 ④ リハーサルを行い、流れや構成をメンバーと相談し、必要に応じて修正する。 ⑤ プレゼンテーションを行う。	・プレゼンテーション用ソフト ・フィードバックシート
事例4 【A1】	【SNS で自分の簡単な自己紹介を書く】 簡単な語句や短い文を使って、目的に応じた最低限必要の情報を書くことができる。 ① SNS での自己紹介文の例を見て、どのようなことが書いてあるかを知る。 ② 自己紹介用の文章を書いてみる。 ③ PC、あるいはスマートフォンでの日本語入力を練習する。 ④ ②で書いた文を PC、あるいはスマートフォンで自身の SNS に載せる。	・SNS ・日本語入力練習ソフト ・下書きを作成するためのワープロソフト

モジュール7）問い合わせができる		教材等
事例1 【B2】	【ケーススタディ:それぞれの立場でディスカッション】 説得力のある言葉遣いで交渉の話し合いをすることができる。 ① あるトラブルのケース（ごみ処理場建設、マンションの騒音問題など）を読む。 ② 意見が違う人々の、それぞれの立場に立ってディスカッションを行う。 ③ グループやクラスで問題を分析し、解決策を導き出す。	・トラブルが書かれたケースシート ・解決策を書くためのワークシート
事例2 【B1】	【外国人のための公共施設パンフレットづくり】 ウェブサイトでわからない詳細を公共施設に行って質問することができる。 ① 学校近くの公共施設（図書館や交流センターなど）のウェブサイトで基本情報を調べる。 ② ウェブサイトではわからない情報（外国人のための情報）について質問を考え、公共施設に問い合わせに行く。 ③ パンフレットにまとめる。	・公共施設のウェブサイト ・公共施設のパンフレット例
事例3 【A2】	【日本の生活 TIPS 動画づくり】 自分にとって必要な、複雑ではない情報を口頭で説明したり質問したりすることができる。 ① 不在連絡票の対処方法、ごみの捨て方など、日本の生活 TIPS について調べる。 ② 調べた TIPS をもとに動画を作成する。 ③ 動画発表会を開催。動画を見た学生は動画視聴後に質問する。	・例となる動画 ・動画プランとナレーションが書き込めるワークシート
事例4 【A1】	【問い合わせメールを書こう】 直接必要なごく身近な話題について、簡単な質問メールを書くことができる。 ① 簡単な問い合わせメールを読む。 ② 問い合わせ先と質問内容を決める。 ③ 例のメールと同じ形で、質問メールを書いてみる（できれば実際に送る）。	・問い合わせメール例

モジュール8）社交ができる		教材等
事例1 【B2】	【ビジターセッションを行う】 地域の住民や近隣の高校、大学の学生などと共に意見交換会に参加したり、母国の紹介を行うことができる。 ① 話題の下調べを行う。 ② 質疑応答のしかた、要点をまとめる練習、相手の発話意図がわからない場合の聞き返しの他、口頭によるやりとりの際の相槌、ポライトネス等にも注意を向ける。 ③ 学習者が集団の中での自分の役割を意識するように促す。例えば司会であればその表現方法について学ぶ。 ④ 本活動としてビジターセッションを開き、実践する。 ⑤ 本活動後、セッションで出た話題についてあらためて文字化するなど振り返りを行い活動の精緻化を促す。	・上級者向けの口頭発表やプレゼンテーションに関する教材 ・自分の役割を促すための工夫 ・ビジターセッションの振り返りのワークシート
事例2 【B1】	【フィールドトリップ活動】 地域の店を訪問し紹介したり、仲間と地図を頼りに歩いたりするオリエンテーリング活動など共同作業を通して、対話になれる。 ① インタビューの練習を教室内で行う。本活動で想定される語彙や表現をあらかじめ紹介しておく。 ② 地域の商店の調査や街頭インタビュー、学校周辺の工場や公共施設、寺院を知るためのオリエンテーリングを行うなど活動のテーマに沿って、実践する。 ③ インタビューの結果や知り得た情報をまとめ、発表する。	・ヒントとなる学校周辺図 ・インタビューの結果をまとめるためのワークシート
事例3 【A2】	【自己表現を中心としたテーマについて質疑応答ができるようにする】 自分の生活を中心とした身近な話題について、問答を通してやり取りができる。 テーマに沿った質問例を考える。 ① 教室内のクラスメートとペアやグループでお互いに問答をする。 ② 教室内のクラスメートとペアやグループで身近な自分の生活を中心とした内容について、問答を通してやり取りが行えるようにする。 例：自分の家族、一日の過ごし方、お気に入りの〇〇、・・・。 ③ 段階に応じて、使用語彙や描写表現を広げたり、応答の的確さ、質問の掘り下げ方などに留意させる。	・トピックや質問事項を箇条書きで書けるようにしておくためのワークシート
事例4 【A1】	【スピーチ】 身近な話題や身の回りのことについて人前で話すことができる。 ① テーマに沿ったスピーチ内容を考える。 ② スピーチを実践する。発表内容は書かせてポーズやフレージングなどに留意させ相手に聞きやすい発話を促す。 テーマ例：自己紹介、ある日の出来事、今週の予定、自分の家族、・・・。 ③ 段階に応じて、スピーチの展開についての言及、使用語彙や描写表現の拡大、社会的な話題を扱うなどして発展させていく。	・自身のスピーチの達成度合いを振り返るためのワークシート

モジュール9）手続きができる		教材等
事例1 【B2】	【史跡見学を行う活動】 博物館や史跡の団体見学の申請や、史跡見学のボランティアガイド要請の申請などができる。 教室内での疑似的なものでもいいし、学習遠足などの機会があれば作業を学習者に分担してもらい実践してみる。 ① 史跡見学やガイド要請の申し込み手順や注意事項を読む。 ② 申請事項の内容を確認する。 ③ 正確に申請用紙に必要事項を記入する。 ④ 正しく書けているか、グループ同士で、または教員がチェックを行う。	・オーセンティックな各種申請用紙 ・自身の活動を振り返るためのワークシート
事例2 【B1】	【申請用紙が書けるようになる活動】 公共の施設等では様々な申請用紙が用意されている。その申請用紙を時には施設の係員などの助言を得れば作成し申請ができる。 ① 疑似的な利用申請（例えば図書館利用、奨学金の応募）の注意事項を精読する。 ② 申請用紙に記入し、申請する。あるいは可能ならば実際の図書館等に出向きカードを申請したりする。	・オーセンティックな各種申請用紙や問診票 ・自身の活動を振り返るためのワークシート
事例3 【A2】	【アンケートに答える】 自分自身の情報について記入して（入力して）答えることができる。 例：調剤薬局で提出する問診票、休みの日の過ごし方、進路調査、アルバイト調査など。	・問診票、進路調査用紙など
事例4 【A1】	【自分に関する情報を正しく書ける（入力できる）】 様々な申請用紙などに、自分の名前、住所、生年月日といった基本的な自分の情報を正しく記入できるようにする。 分からない言葉があれば、どういう意味かたずねることができる。	・氏名や住所、生年月日などを書くようになっているワークシート

モジュール10）楽しむことができる		教材等
事例1 【B2】	【音楽を楽しむ】＊日本語の曲の歌詞を通して様々な表現を知る。 日本語の曲を聴きその表現の奥深さを見つけたり、感じたことを伝えたりして他者と共有することができる。 ① 発表する準備をする。 ② 自分の好きな曲を選ぶ。選んだ理由を述べる。 ③ 日本語の歌詞を確認しながら、どのようなメッセージがあるのか説明する。 ④ 日本語の素敵だと思う表現などを取り上げてどのようなメッセージがあるのかディスカッションする。	・歌（音楽を聴く） ・歌の歌詞
事例2 【B1】	【言語交換する】＊母国の言葉を紹介する。 他国の文化や言語について理解することができる。 日本語で言葉の仕組みや文化について説明することができる。 ① 学習者が自分の国の言葉を紹介する準備をする（何を紹介するのか）。 ② 説明に使う資料を作成する。 ③ 国の言葉を紹介し、教える。 ④ その言葉を使ってクラスメート同士が交流をしてみる。 ⑤ 特徴的な表現を取り上げて、自国の文化を紹介する。 ⑥ グループになり、自文化、母国語と比較しながら違いを楽しむ。	・言語/文化の紹介をするための資料の作り方
事例3 【A2】	【ゲームをする】 ＊日本語のゲームをプレイする。 日本語で書かれていることを理解する。 日本語でコミュニケーションを取りながら楽しむことができる。 ① どんなゲームがあるのか確認する。 ② ゲームのルールを確認する。 ③ ゲームをしながら、分からないことを聞いたり教えたりする。 ④ ゲームの感想を話し、おすすめのゲームを紹介する。	・ゲームの種類が分かる資料 ・ゲームのルールが分かる資料 ・レアリア、広告
事例4 【A1】	【日本の文化に触れる】 ＊地域で行われているイベント（祭り）を見に行く。 日時や場所などの情報を得ることができる。 場所を聞いて理解することができる。 ① 地域の情報を探す（検索する）。 ② 興味のあるイベントの日時は場所を確認する。 ③ 行われる場所を他者に聞く（道案内）。 ④ 実際に行った時の写真をクラスメートと共有する（どんなイベントだったのかを発表したり、グループで話し合ったりする）。	・HP ・ポスター、チラシ ・市報

よりよいカリキュラム、よりよい教育を共に目指していきましょう！